



Report 3 地域で防災意識を高め合う 元気な地域づくり研修会

口和自治振興区環境福祉部と女性部が主催する防災研修会が8月2日、口和自治振興センターで開催され、口和町内から約70人が参加しました。

災害時の停電を想定し、発電機と投光器を使用した中で行われた講演会では、清水孝清口和支所長が庄原市防災マップについて説明し、その後、三次消防署口和出張所の職員から避難訓練の地域での取り組み方や、AEDの使い方について講習を受けました。会場では、さまざまな避難グッズも展示されました。

また、女性部が緊急時に備えた炊き出しを行い、作ったおむすびと味噌汁を参加者全員で試食しました。

参加者は「いつ災害が起こっても対応できるように、どの家庭でも日ごろから災害に備えておく必要がある」と話していました。



▲AEDの使い方を学ぶ参加者

Report 4 疲れを癒やす伝統文化 越原で半夏のちまきづくり体験



▲団子を包む参加者

比和町越原に伝わる伝統文化「半夏のちまきづくり」体験が7月2日、ふれあいの里越原で開催され、市内外から20人が参加しました。

半夏のちまきづくりは、日ごろの疲れを癒やすため、農作業が一段落し、ちまきを包むクマササが大きく成長した半夏の時期に行われる行事で、越原みこと会が伝統を引き継いでいます。

参加者は最初、笹の葉を5枚使う独特の包み方に悪戦苦闘していましたが、越原みこと会のメンバーの指導を受け、一人10本のちまきを完成させました。

完成したちまきは地元食材を使った料理と共に振る舞われ、参加者は「素朴な味だけど、懐かしい味がする。自分で作ったちまきは格別です」と舌鼓を打っていました。

Report 5 せせらぎに乗せ金管の調べ 第4回鮎の里せせらぎコンサート

鮎の里せせらぎコンサートが8月3日、鮎の里公園で開催されました。

このコンサートは「癒やしを感じる音の里口和を創造し元気あるまちづくり」を目指す、クラスターのまちづくり「音の里構想」の一環として開催され、今年で4回を数えます。

市役所ロビーコンサートにも出演した、トランペット奏者の山本巧美さんほか4人による金管五重奏が、西城川のせせらぎとともに会場に響き渡り、来場した約140人が至極の音に酔いしれました。

全13曲を演奏した山本さんは「野外コンサートは初めてで、とても感動した。機会があればまた演奏させたい」と話していました。



▲珍しい五重奏に聴き入る来場者

市内のイベントやまちの話題をお届けします。
身近でホットな情報をお寄せください。
情報政策課広報広聴係
☎0824-73-1159 / Fax0824-72-3322

Report 1 境内に響き渡るハーモニー 千年杉コンサート&紙芝居

比婆道後帝釈国定公園指定50周年記念イベントのひとつ「千年杉コンサート&紙芝居」が8月11日、西城町の熊野神社境内で開催されました。

プログラム前半は、西城を中心に活動しているAGC（アコースティックギタークラブ）の演奏を皮切りに、川北町在住のギター奏者谷口邦彦さんの演奏、西城町神楽愛好会の神楽と続きました。合間には、AGCと谷口さんによる演奏もあり、来場者は手拍子しながら楽しんでいました。

後半は、西城ブルーハーモニー吹奏楽団が最近の曲のメドレーや昔からなじみのある曲を演奏。また、お話し会ダンボが神話の「天の岩戸」を紙芝居で上演しました。

最後は、来場者が一体となり「ふるさと」を歌い締めくくりました。

来場者からは「境内に響く吹奏楽の音色が雰囲気にとってもマッチしていた」「神話を紙芝居にして語ることで、子どもたちでもわかりやすくて良い」と好評で

した。
会場では「神話の里」くまの自治会によるバザーも出店され、地元農産物やゴギなど西城の味覚も楽しんでいました。



▲西城ブルーハーモニーの演奏

Report 2 カーブゆかりの3市町が合同PR 庄原市・日南市・由宇町が特産品販売



▲好評だった庄原焼き

広島東洋カーブの応援を通じて交流を深めている3市町（庄原市・宮崎県日南市・岩国市由宇町）が8月10日、マツダスタジアムで合同特産品販売を行いました。

球場内の「かば広場」に設けられたブースでは、日南市が宮崎牛の焼肉やコロケ、由宇町がれんごんのコロケなどご当地グルメを用意。庄原市からは5店舗が出展し、庄原焼き、アップルパイ、カレーパン、ジェ

ラート、ドーナツなどの販売を通じて、満員の観客に「庄原市」をPRしました。

庄原市カーブ応援隊の山根英徳事務局長は「出展者には猛暑にも負けず、鉄板で庄原焼きを焼いていただくなど、しっかり我が町自慢ができた。カーブを通じて庄原市をPRすることで、観光や定住にもつなげていきたい」と話していました。



▲木山耕三市長ら3市町の関係者がまちをPR

Report 6 帝釈峡で自然科学を学ぶ 第59回帝釈理科講習会

第59回帝釈理科講習会が8月8日、9日の2日間、帝釈自治振興センターで開催され、市内外から37人が参加しました。

初日、参加者は日本シダの会会員の田丸豊生さんから、県内のシダ植物の分布や種類について講義を受け、実際に神龍湖沿いを歩いて石灰岩地帯に自生するシダを観察しました。

2日目は、日本は虫両生類学会会員の内藤順一さんから絶滅危惧種のダルマガエルの生態について講義を受けた後、灰塚ダムのピオトープに移動し、実物を網で捕まえて、特徴である背中の丸い模様や短い足を観察しました。

この講習会は、生物、地学を中心とした自然科学の研究の場としてふさわしい国定公園帝釈峡を活用し、理科教育、生涯学習の推進を目的に、昭和24年から毎年開催されています。



▲田丸さんの説明を聞く参加者

Report 7 高速道路の事故防止を訴える 「道の駅たかの」で交通安全キャンペーン



▲ドライバーに安全運転を呼びかける

▲白バイ乗車にご満悦

庄原地区交通安全協会、庄原地域交通安全活動推進隊、庄原警察署、広島県警高速隊などによる交通安全キャンペーンが7月16日、『道の駅たかの』で行われました。

夏の交通安全運動に合わせたこのキャンペーンは、3月末に開通した松江自動車道の利用者に向けた初めての取り組みです。

交通安全協会の会員や高速機動隊員などが、道の駅に立ち寄ったドライバーに、啓発チラシなどが入った袋を手渡し、安全運転を呼びかけました。

Report 8 迫力のドリル演奏にくぎ付け 広島県警察音楽隊音楽鑑賞会

広島県警察音楽隊28人による音楽鑑賞会が7月12日、総領町の里山総領体育館で開催され、総領保育所の園児や総領小学校の児童、一般の来場者合わせて約200人が来場しました。

第一部では、「あめふり」や「海」などの日本の情景夏メドレーやアニメソング、人気アイドルの曲などを演奏。みんな手拍子をしたたり、一緒に歌ったりしながら、演奏を楽しみました。

第二部では、カラーガード演技を伴ったドリル演奏が披露され、一糸乱れぬ隊列を組んでの演奏と迫力あるカラーガード演技に、会場は歓声がかたまし拍手が巻き起こりました。

演技終了後、保育所の園児が警察音楽隊の方に「ありがとう」と感謝を述べ、花束を手渡しました。



▲ドリル演奏